

齋藤幸孝(県鷹)
さいとうゆきたか
田沼意次老中1772 =

和学者。養父幸雄の「江戸名所図会」編纂継承し、追加踏査と考証に努めるうち急逝した。

江戸芝の名主大久保藤兵衛の子に生まれたが、

父が早世して、母の手で育てられ、実家の江戸神田雑子町の町名主齋藤市左衛門(幸雄)の養子となる。

・・・・・・1781 = 9歳 :

田沼意次失脚1786 = 14歳 :

異学の禁・・1790 = 18歳 :

混浴禁止・・1791 = 19歳 : 譲られて、養父の名跡を継ぎ町名主を勤める。

松平定信引退1793 = 21歳 :

養父に似て、文事を好んで和歌を嗜み、滝沢馬琴・太田南畝・亀田鵬斎らと交流もあった。

蝦夷地直轄始1799 = 27歳 : *養父の幸雄が死去し、その遺業ともいうべき「江戸名所図会」編纂事業を継承、出版許可までとっていた刊行を延期し、自ら江戸各地を踏査、

伊能測量始・1800 = 28歳 : 早速、寺を訪問して資料を蒐集し、「武州古跡考」をまとめ、

宣長没・・1801 = 29歳 : 神田の里の今昔を書物と聞書きによって記した「衛之地理」を著述、

いざ刀来航・1804 = 32歳 : この年、山東京伝が「近世奇跡考」を刊行、

青洲麻醉手術1805 = 33歳 : 「事跡合考」の筆写を完了、

間宮海峡発見1808 = 36歳 :

・・・・・・1810 = 38歳 : 太田南畝の「調布日記」を筆写、翌年にかけて探訪備忘録「武聞蔵見録」をまとめ、

黒住教・・1814 = 42歳 : この年、山東京伝が「骨董集」を刊行、

・・・・・・1815 = 43歳 : 翌年にかけて「郊遊漫録」を著述するなどして、考証に努め、

杉田玄白没・1817 = 45歳 : *ほぼ原稿を完成させるも、

水野忠成老中1818 = 46歳 : *出版に至らず、急逝した。この仕事は子の齋藤幸成に受け継がれた。